

みずべ 8 ゆたかな水辺をめざして

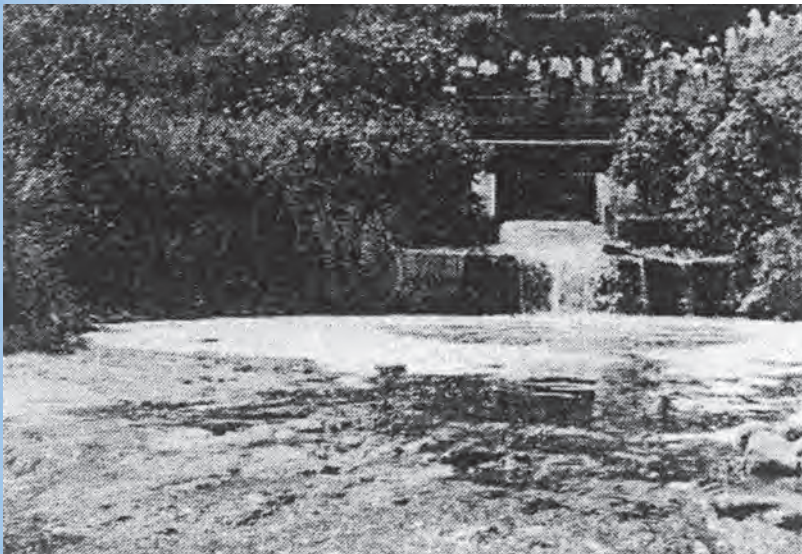
(1) クリーンキャンペーン

全国ワースト・1の大和川

「わあーくさあ」「大和川はきたないし、あぶないから行ってはいけないよ」と1970（昭和45）年ごろ、よくいわれていました。

大和川の水質は、BOD（^{ビーオーディー}生物化学的^{せいぶつかがくてきさん}酸素^{そようきゅうりょう}要求量）は31.6mg/L（75%値）にもなり、1978（昭和53）年には、堺市は大和川から飲み水として^{しゅすい}取水することをやめて、淀川の水を利用しています。

109ある全国の一級河川水系の中でも水質が大変悪く、ワースト1（ワン）、2（ツー）が続きました。



▲石川へ流れ込む家庭排水・洗剤の泡でまっ白



▲魚が浮いた矢田付近の大和川

子どもがかわれば、親がかわり、地域が変わる
「川の水はこころの鏡」^{かがみ}「大和川をきれいにしよう」と1985（昭和60）年から絵と作文のコンクールがはじまりました。



▲奈良県大和郡山市 小学校5年生(1985(昭和60)年)



▲大阪府大阪市 中学校3年生 (1986(昭和61)年)

当時の絵や作文から子どもたちがどう感じていたかを話し合いましょう。

最優秀賞（大阪府知事賞）
川と私たち

大阪市住吉区・荻田北小学校二年

川は、すごく光っています。
やまと川は、すごくよごれています。
わたしたちは、川を、きれいにしたいのです。
川は、わたしたちと、おなじいのちがあります。
それに川は、わたしたちと、おなじ心をもっています。
川は、よごされていて、がまんをしています。
わたしは、それを、みていてがまんができません。
いのちは、たいせつです。すてきなおもちゃをもつよりも、
じぶんが生きることです。
川は、じぶんのいのちをすてはしません。
わたしは、やまと川を、たいせつにしてやりたいとおもいます。
光った川になるために。

第5回（1989（平成元）年）課題曲募集で、小学校4年生の作品が選ばれ、校内放送や授業で使われました。

昔、川の魚が食べられたというけど、ぼくは知らない、昔、川で泳げたというけれどぼくは、知らない。
魚をたべられなくしたのは、だれだ。
泳げなくしたのは、だれだ、けものだろうか、魚だろうか、魚だろうか。
いや一番かしこいはずの人間だ、きれいな川のすきな人間だ。

大阪府は「かっぱ探検隊」をつくり、石川上流の滝畑などで川遊びや学習をした1996（平成8）年2月に大阪長居公園の大阪市立自然史博物館で250人が参加した「子ども大和川水環境サミット」を開きました。

子どもたちは、大和川をきれいにする方法について話し合い、大阪府知事に、月に1回の清掃活動を行う。合成洗剤の使用量をへらす等の実施を提案しました。

これをうけて、11月に、大阪府と奈良県の知事などが参加し、「第2回大和川サミット」が開かれました。

そこで、「2月を水質改善強化月間とする。合併浄化槽を普及する。3月2日の一斉のゴミひろいの清掃活動を両府県で行う」と申し合わせました。

今も続いている「大和川・石川クリーン作戦」は、子どもたちの力もあって実現したのです。

第20回「2004（平成16）年」には、第3回大和川サミットが開かれ、子どもたちは大阪府と奈良県知事に絵と作文の知事賞の作品を、広報活動に使うように手渡しました。

大和川の水質をきれいにするCプロジェクトの取り組みがはじまりました。

第10回「1994（平成6）年」の課題曲の最優秀作品「大和川慕情」が、演歌歌手によって歌われました。

2003（平成15）年の子どもたちのポスターは、必死に「大和川はいのちの川」「ごみを捨てるな」とうたっています。

大和川つけかえ300年を記念して、2005（平成17）年に「10年後の大和川へのメッセージ」をタイムカプセルに入れました。2015年期待通りの大和川になっていたでしょうか。



2014年度の入賞作品より



大阪府知事賞
めっちゃ大好き大和川

大阪市立安立小学校4年
梶谷 明早花

「沙白き 新大和川 我が町に さかひ少女の 浄かれと添ふ」

このうたは、堺市の与謝野晶子さんが、昔の大和川のことをうたったものです。砂が白く、貝や魚がたくさんとれた美しい大和川のころのうたです。

私は小学一年生の時に、夏休みの自由勉強で初めて大和川の作文を書きました。それから四年間、私は大好きな大和川の作文を毎年書いています。きっかけは、一年生の時に大和川で、かわいくて小さな魚が気持ちよさそうに泳いでいるのを見てから、大和川のことめっちゃ大好きになったからです。

それから、大和川のことを色々勉強していくうちに、大和川の付け替えのことや、与謝野晶子さんのことも知りました。このうたからは、昔の大和川がとてもきれいな川だったことがよく分かります。

私はどうしたら大和川が昔のように、みんなが楽しく泳げるきれいな川になるのか知りたくて、何度か下水道科学館へ勉強しに行ったり、いくつかのイベントに参加したりしてきました。

たしかに、大和川はまだ泳げるほどきれいな川ではないです。でも、ワーストワンではなくなりました。あゆがすめるようにもなりました。これだけでも、すごいことだと思います。だから次は、みんなの気持ちをひとつにして、おじいちゃんやおばあちゃんのころの泳げるきれいな大和川に出来たらいいなと思います。でも、私一人が頑張ってもぜんぜん無理です。大和川を愛する人たちがただ頑張ってもやっぱり無理だと思います。汚水を出さない、川をゴミ捨て場所にしない、このことを地域の全員が守らないといけないと思います。

現在まで延べ110,206点の応募があり、はじまった時小学生だった人びとも大人になり、家族で大和川について話しあっています。

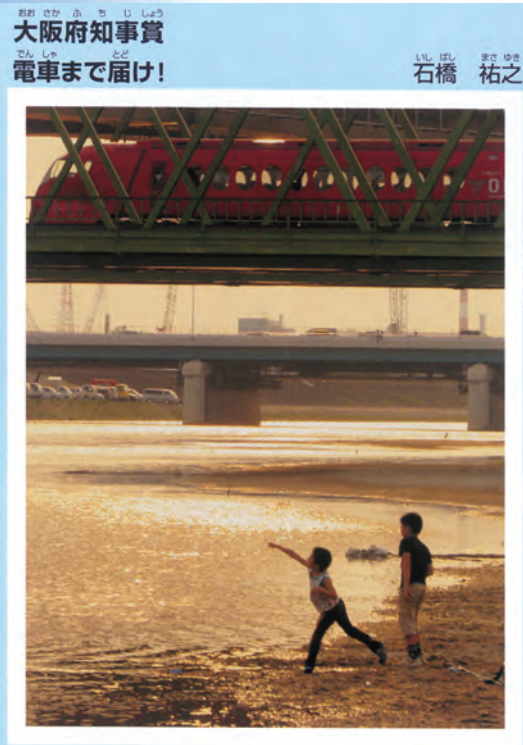
「おじいちゃんやおばあちゃんの子どものころはきれいかった」

「お父さんやお母さんの子どものころは、きたなかった」

「今はすごくきれいになってきた」

「^{だいちょうきん}だけど大腸菌がへると、安心して泳げるそうだよ」

「ゴミも多いし、もっとがんばらなきゃあ。」



(2) 川と親しむ

舟利用の復活

大和川では昔、物を運ぶのに船がさかんに利用されてきました。1900（明治33）年ごろからは、道路や鉄道の発達とともに、水運としての大和川の役割は小さなものになっています。しかし、最近になって、船着場を整備したり、楽しみとしてボートに乗ったりするようになってきました。

奈良県桜井市の金屋では、2000（平成12）年ごろ、昔の海石榴市の時代をイメージした親水河川整備がされました。駅前で行われていた大和さくら万葉まつりが、河川敷で行われるようになり、灯籠流しやボート乗船が行われています。奈良市の秋篠川では、2010（平成22）年秋の平城遷都1300年祭のとき、舟下りが行われました。御所市の葛城川でもボートの体験乗船が行われています。奈良県と大阪府の境にあたる亀の瀬溪谷では、カヌー下りも行われています。

大阪府の石川では富田林や羽曳野で、また大和川本川では、柏原市、松原市、堺市の「水辺の楽校」エリアなどで、たびたびカヌーやボートの体験乗船が行われています。2005（平成17）年の「川とあそぼう大和川まつり」では、みんなであし舟をつくり、浮かべて遊びました。旧大和川筋にあたる長瀬川では、秋の収穫祭のときにボート乗船が行われています。

水難事故から身を守ろう

水辺に近づき、親しもうとする場合、水難事故に気をつけねばなりません。水難事故を防ぐにはどうすればよいでしょうか。水辺には深みがあったり、流れの急な所があったり、危険がつきものなのです。このことをよく知り、無理をせずに、自分の力量にあった行動をとることが大切です。とくに深いところで船に乗ったりするときには、必ずライフジャケットをつけるようにしましょう。また、危険なところへは絶対一人では近づかないようにしましょう。お互いに見守り合いながら行動し、もし危険を感じたら、すぐに誰かに知らせることも大切です。



▲2010（平成22）年9月 秋篠川舟下り

▼ライフジャケットをつけよう



▶あし舟のボート

みずべ がっこう (3) 水辺の楽校であそぼう

1 佐保川水辺の学校

春日山原生林が源流で奈良市を流れる佐保川は、1940年代ぐらいまで、人々のくらしとは切りはなせないものでした。しかし、家がふえ、川の水がよごれ、川で遊ばなくなってしまいました。そこで、地いきの皆さんや佐保川小学校などが市や県にお願いし、1999（平成11）年10月

に「水辺の楽校」が実現し、力を合わせて川の整備を進めています。自治会の人々は毎月1回、佐保川小学校の子どもたちは毎週1回、川のそうじをしています。水辺の楽校ができてから、土手にすてられるゴミが少なくなりました。

土手には草がはえ、さまざまな生き物のすみかとなっています。カマツカなどがふえ、川の魚の種類もふえました。

低学年は、水辺の楽校で水遊びや生き物さがしをしています。4年生は、理科の学習で水辺の楽校の土手の植物や生き物を、1年間調べています。5年生は、水辺の楽校と、春日山原生林の佐保川の源流で、水生生物の調査や水質調査をしています。

学校の学習だけでなく、子どもたちは、気軽に水辺の楽校で遊ぶようになりました。近所の人々は水辺の楽校の清掃をし、お花見をし、年に数回、水辺のコンサートが行われます。

ゲンジボタルが食べるカワニナという貝がふえてきました。佐保川上流の東大寺の近くのように、ゲンジボタルがまう川にするのが、みんなの願いです。



2 堺にもできた水辺の楽校

堺でも、50年ぐらい前まで大和川で泳ぎ、魚や貝をとり、1978（昭和53）年まで水道用水に利用していました。市民の願いや努力が続いて少しずつきれいになり、2004（平成16）年「大和川こどもまつり」、2005（平成17）年「川とあそぼう大和川まつり」などのイベントも行われました。

2005年、地元の願いにこたえて、国が浅香に水辺の楽校エリアの整備を始めました。大和川に大きな石をならべ、瀬と淵浄化施設もつくりました。広い砂州や堤防、階段も楽しい交流場所になっています。

2006（平成18）年には、「大和川水辺まつり」がひらかれ、毎年「水辺の楽校まつり」がもたれています。トイレや足洗い場があり、小学校の学習や地域のみなさんのあそびやウォークで利用されています。

6月の大和川かんさつ・あそぼう会では、ボラがたくさんいて、アユやウナギが見つかることもあります。

安心してあそべる水辺がもっと広がるといいですね。



▲2011（平成23）年6月
コイをつかまえたよ！



▲2015（平成27年）6月 小学生も投網でアユを見つけました



よさのあきこ (4) 与謝野晶子と大和川

与謝野晶子は、明治から昭和まで活躍した歌人です。

日本の各地やヨーロッパを旅していますが、砂も水も美しかったふるさとの大和川がなつかしいとうたっています。

与謝野晶子の歌碑ができたよ

大和川 砂に渡せる板橋を 遠くおもへと 月見草咲く
 月見草がさいているのを見ると、大和川の砂州にわたした板橋をなつかしく思います。

沙白き 新大和川 我が町に さかひ少女の 浄かれと添ふ
 まだ新大和川と呼んでいた白い砂の大和川は、堺の少女たちが美しく育つことを願って見守っている。



▲1902 (明治35) 年ころの大和川 大阪から堺への板橋



▲与謝野晶子の歌碑と大和川 春の連休には、つつじまつりでにぎわいます。



(5) 光る川に光る命と人の輪を ～大和川市民ネットワーク～



みなさんは「川はだれのもの」という歌を知っていますか。川はだれのものだと思いますか。実は川はみんなのものなのです。そのことを、「みなみらんぼう」さんという方がうまく歌にしておられます。

家や学校で使う水はどこからやってきて、どこへ流れていくのでしょうか。水が汚れていると、どんなことがおきるのか、それを防ぐにはどうすればよいのでしょうか。ひとりひとりが関心をもち、学び、意見をのべ、行動することが大切です。家や学校のまわりなど、自分に身近なところから、みんなで考えてほしいと思います。

大和川市民ネットワークは、そんな思いをつなぎ、学びあう場として、2008 (平成20) 年3月につくられました。奈良県・大阪府をはじめとして、大和川にかかわりをもつ人びとが情報や意見を出し合い、たすけあいながら活動しています。

大和川市民ネットワークでは毎年、「大和川の日」市民のつどいや川で遊び、川に親しみ、川をきれいにする活動への参加を呼びかけたりしています。みなさんもつどいに参加して、奈良や大阪の友達をつくりましょう。

執筆者

(敬称略：50音順)

小川力也	大阪府立富田林高等学校教諭
彼谷利彬	元大阪府立高等学校教諭
河内晴彦	元四條畷市立忍ヶ丘小学校教頭
黒田伊彦	「わたしたちの大和川」研究会代表
小松清生	大和川市民ネットワーク事務局長
澤井健二	摂南大学名誉教授
谷 幸三	一般社団法人 淡水生物研究所理事
永松義敬	国土交通省大和川河川事務所所長
松好伸泰	奈良教育大学自然環境教育センター研究部員

* 役職名は2016年3月現在

「わたしたちの大和川」研究会

(敬称略：50音順)

和泉全史	大阪府教育委員会
尾崎和弘	奈良県教育委員会
彼谷利彬	元大阪府立高等学校教諭
河内晴彦	元四條畷市立忍ヶ丘小学校教頭
黒田伊彦	「わたしたちの大和川」研究会代表
小松清生	大和川市民ネットワーク事務局長
澤井健二	摂南大学名誉教授
辰谷直子	大和川市民ネットワーク副代表
谷 幸三	一般社団法人 淡水生物研究所理事
為房佳祐	八尾市立北山本小学校校長
永松義敬	国土交通省大和川河川事務所所長
西林利裕	大阪芸術大学短期大学部講師
松好伸泰	奈良教育大学自然環境教育センター研究部員

* 役職名は2016年3月現在

2016(平成28)年3月発行

◎監修・編集：「わたしたちの大和川」研究会

◎制作：株式会社 日本教育研究センター

◎発行：大和川市民ネットワーク